

事故経過報告書

事故概要：レース中に参加者が心機能の異常により心肺停止に陥り、心肺蘇生を施し救急隊に引き渡したものの【一命は取り留めた】

大会名：平成26年度広島県会長杯

日 時：平成26年10月26日（日）10時6分頃（スタート直後）

場 所：広島観音マリーナ沖（南700m付近）

当事者：〇〇〇〇（40歳）

：広島工業大学ヨット部OB（セーリング経歴約20年）

艇 種：スモールリグクラス（レーザーラジアル）

状 況：スタート時は北の風1.5m程度

：スタート後にスターボからポートにタック、その後スターボにした後に心肺停止

事故の経緯

〔記録を基に関係者の情報を26日時点でまとめたもので、時間とともにメモしたものと関係者の意見を基に推測し作成しており、多少の時間的ずれがある。〕

10時05分：スモールリグクラスのスタート（オールフェアー）

10時06分前頃：スタート後、セーリングフォームの異常を認めた（レース委員長）
（スターボードタックで艀装品のトラブル修理中のように前のめりの姿勢）

10時07分前頃：スタート後にスターボからポートにタック、その後スターボにした後に近くの艇が異変を察知
：近くのレース艇が、手を振って該当艇の異常事態をスタートアウトターに知らせる

10時07分頃：スタートアウトターに状況確認を指示（レース委員長）

：プロテストポートにスクランブルを指示（レース委員長）

10時08分頃：プロテストポートに選手を引き上げ、直ちに心肺蘇生を開始
（本人は意識がなく呼吸及び脈拍を感じず：東風からの間接情報）
（プロテストメンバーが、ライフジャケット等をナイフで切り裂き心マッサージ）

10時09分頃：心肺蘇生を継続しハーバーへの移送を指示（レース委員長）

：応援要員のプロテストポートへの移乗を指示（レース委員長）

10時09分頃：観音マリーナ（△△）へ事故発生の一報（レース委員長）

10時10分：119番へ通報（心肺停止とディンギーヤードへの急行を要請：□□）

10時10分：△△の依頼によりクルーザーヤードへAEDを取りに行く（OP母）

10時14分：全クラスに対しN旗掲揚⇒その後、AP+Hを掲揚（19分頃）

10時15分頃：プロテストポート棧橋へ着艇し棧橋にて◎◎がAEDを使用
（電気ショック2回、呼吸回復、意識なし）

10時24分頃：救急隊到着につき患者を引き渡す
10時24分：赤羽専務理事へ事故報告（レース委員長）
10時27分頃：本部船しづき桟橋へ着艇
10時31分：〇〇奥さんへ事故報告（◇◇経由）
（心臓疾患がある旨の連絡あり⇒救急隊へ情報提供）
11時頃：救急車で病院へ搬送（△△、☆☆が随伴⇒広大病院）
11時30分：選手及び運営役員を集め事故状況を説明
14時45分：レースの中止を決定し、選手へ状況説明と情報管理のお願い
16時頃：レース委員長が広大病院を訪問し財布と車のキーを家族に渡す
（意識なし、ICUにて措置中で脳浮腫に備えて冬眠療法）
18時50分頃：奥さんから電話あり（状況変わらず、変化があれば連絡を依頼）
2014年10月27日（9時現在）

28日14時頃：奥さんから電話あり
麻酔で意識は無いが僅かな動きあり、脳低温療法の温度を少しずつ上げていくとのこと。
29日14時頃：奥さんから電話あり
本人の意識がある程度回復し、薄く目を開け問い掛けに頷いたし軽く手を握ることができた。
主治医からは「たぶん後遺症は出ないでしょう」との説明があった。
30日12時頃：本人から電話あり
医者の許可を得てICU室から電話している、大丈夫とのことであった。
レース当日の記憶はまったく無いとのこと。

11月4日 ：奥さんへ電話
検査したところ不整脈がありペースメーカー手術の予定
まだICU室とのこと

レース委員長 大原 博實